

つきひは百代の^{ほくたい}過客^{くわかく}にして、^{ゆき}行かふ年も又^{たびびとなり}旅人也。

上の文は、松尾芭蕉の「奥の細道」の冒頭部分である。芭蕉は江戸時代、日本各地を旅し、俳句を数多く残したことで有名である。北陸地方にも訪れている。芭蕉の時代の旅は日本国内が舞台であったが、それでも現代より地域文化の独自性や多様性の幅はあったかもしれない。芭蕉の句が現代まで愛読され続けている理由は、俳句の素晴らしさだけでなく、時間をかけて旅をすること、あるいは生きることについて、私たちに様々なことを教えてくれるからに違いない。

設問.

上の文章を読んで、最初に挙げた芭蕉の言葉の内容にも触れながら、あなたが思う現代の「旅」や「観光」について、800字以内で自由に書きなさい。

(出典) 1行目:『芭蕉 おくのほそ道 付 曾良旅日記 奥細道菅菰抄』萩原恭男校注, 岩波書店, 1979年, 9頁、2行目以降: 書き下ろし

出題意図：

芭蕉のこの文章は有名である。課題作文の中でこの文章の内容に触れ、意味を理解していること、過去と比較した現代の旅や観光について自分なりの理解や意見を述べることができること、同時に想像力・思考力の伸び、文章展開力を評価する。